



### ●先生のおすすめ絵本●

いいから いいから (作) 長谷川 義史 (出版社) 絵本館



突然やってきたカミナリの親子に対して「いいから いいから」ともてなすおじいちゃん。一緒にご飯を食べたりお風呂に入ったり、さらにはおへそをとられたり！？どんな状況でも「いいからいいから」というおじいちゃんに子ども達が笑顔になる一冊です。ひよこ組の子どもたちは「いいね～！このおじいちゃん！」と絵本の中のおじいちゃんが大好き！よみきかせが終わると、おじいちゃんのログセ「いいから いいから」をまねして何度も唱えています。また、遊んでいるときにお友だちとぶつかってしまった際、「ごめんね」に対して「いいから いいから」と言ったり、「今日はあんまり活動に参加する気分じゃないな・・・」という子に対して「いいから いいから。一緒にやろう！」と誘ったりと日常の中でも使われています。私も給食の時間「この野菜食べたくない！」に対して「いいから いいから。まあちょっとだけ食べてみようよ！」と使わせてもらっています。

<ひよこ組 O先生>

めっきらもつきらどおんどん (作) 長谷川 摂子 (出版社) 福音館書店

この絵本をさくら組で最初に読んだのは7月。今でも個別に「読んで」のリクエストが出ます。リズムのいい文章とあたたか味のある絵とおちゃめな登場人物たちに子ども達はすぐに魅力を感じたようでした。そして♪うた♪「ちんぶくまんぶくあつぺらこのきんびらこじよんがらびこたこめつきらもつきらどおんどん」めちやくちやにうたったそのうたで、主人公かたは楽しくて不思議な世界へすいこまれていきました。ついたところは夜の山。かたのそばへやってきたへんてこりんな3人組は遊ぶことが大好きなおぼけたちでした。かたとおぼけたちが遊んだものはどれも本当に楽しそうで、読んでいる私たちをワクワクさせてくれました。でも...この楽しい世界にいてもふいに心細くなってしまいかた。その時に会いたくなるのはやっぱり「おかあさん」なのでした。最後、かたは急にもとの世界に戻るようになるのですが、子どもたちにとってはそれがホッとしたようなちょっと残念なような、いろいろな気持ちになるようです。きっとまたリクエストが出るかなと思う一冊で私も大好きです。



<さくら組 S先生>



## 夏休みの読み聞かせカードより



とうちゃんのちゃんぽんめん (作) 伊藤 秀男 (出版社) 福音館書店

毎月幼稚園からもらってくる絵本をいつも楽しみにしているわが子。もらった日にすぐ読みました。この絵本はとうちゃんがちゃんぽんめんを作ってくれるという内容ですが、材料が細かく書いてありそれをとうちゃんが作るという特別感が嬉しいのかよくパパに読んでもらっていました。「パパもちゃんぽんめん作ってくれる??」とパパに催促して作ってもらいました。日頃料理をしないパパが野菜を切ったりするのを見て「パパもとうちゃんみたいだね!!」とにこにこ。「今までで一番おいしーい！」ともりもり食べて子どももパパも嬉しそうでした。

<ひよこ組 Iさん>

でんしゃにんじゃ (作) 藤本 ともひこ (出版社) 交通新聞社

電車の忍者「きしゃ丸」「でんしゃ丸」がさらわれた姫を助ける為に戦いをくりひろげながら進んでいくという物語です。絵本の中で繰り返し出てくる『すーはっはっ！すーはっ！すーはっ！すーはっ！』という掛け声がとても気に入ったようで、途中から一緒にその掛け声を楽しそうに言ったり、次の日から遊びの中で言ったりしていました。

<こぼと組 Hさん>



へんしんれっしや (作) しまだ ともみ (出版社) 東京書店



兄が小さい頃からの本で、今は兄弟でお気に入りの一冊です。まちから月へ向かうへんしんれっしや。森や海、地底を通るときにはそれに合わせてれっしやが変身する、ちょっとしたしかけ絵本です。場面ごとに変わる乗客や背景にいる生物に気付き、「ここに〇〇がいた」と指をさしながら発見を楽しんでいます。細かいところもよく描かれているので、よくみたくなる一冊です。深海のシーンにでてくる「リュウグウノツカイ」が気になったようで、何度も名前を聞いてくるのですがどうしても「りゅうぐうのおつかい」になってしまい、深海魚が可愛くなってしまいます(笑)

<つばめ組 Eさん>

オニのサラリーマン じごくの盆やすみ (作) 富安 陽子 (出版社) 福音館書店

「わし、オニでんねん。すまへん。じごくづとめのサラリーマン。」最初の関西弁でいつも笑ってしまう。この時期になるとよく読むお話です。オニがお盆にじごくをきれいに掃除する内容で、色々なじごくがでてきますが、関西弁の話し方なのでいつもはこわいじごくも楽しく読めてしまいます。「〇〇はこうやって掃除する～！」と自分ならこうやるのにと考えているので、「それいいね！」など話はずんでよかったです。

<すみれ組 Tさん>



みんなのおすし (作) はらぺこ めがね (出版社) ポプラ社



ここはおすし屋さん。おなかをすかせたお客さんにぴったりのおすしを握ってくれます。ちょっと変わったお客さんもやってきて…。ドキドキしながらしかけのページをめくっていました。「へいっしやい！」の台詞が気に入ったようで、何回も繰り返し読んでいました。大将とお客さんの手だけが見える上からの独特なアングルで描かれていて、まるで本当に自分もおすし屋さんにいるような、臨場感たっぷりのストーリーです。読み終わった後は、親子共におすしが食べたくなり、「〇〇ちゃんはまぐろとサーモンといくらと〜。」話していました。結末にもびっくりし、思わずはっとするくらいでした！

<たんぼ組 Sさん>

なんでもレストラン (作) 鈴木 まもる (出版社) 文溪堂



色々な動物がリクエストしたものをどんなものだろうと想像しながら作っていくので、動物が説明した「サクサクしてて」とか「からいからいで」などという説明から、何だろうねと考えながら読むのがとても楽しかったです。本を読むのはだいたい寝る前なのですが、本にはたくさんの美味しそうな料理が出てくるので、読むたびに「何か食べたい！」と言いはじめるのがおかしかったです。コックさんの男の子がエプロンをして料理を作るのを見て、自分のエプロンをして料理の手伝いをしてくれました。今までは怖くて包丁を持たせたことがないのですが、私が一緒に手を持って野菜を切ることにチャレンジしてみました。本に出てくる男の子のようにできたことが嬉しかったのか、とても得意気にしていて私も嬉しかったです。

<ひまわり組 Mさん>

※紙面で紹介している絵本の表紙画像の掲載には、出版社の許諾をいただいております。

### 編集後記

日増しに秋が深まってきましたね。少し外に出て深呼吸したくなります。外出も思うようにいかなかった数か月、我が家は毎日が室内運動会。図書館で過ごす時間も増えました。絵本を一冊一冊手に取り、四季を感じてほしい。こんなことを伝えたい。色々な世界を見せてあげたい。子どもには伝わりづらけれど、選んだ絵本が並んだ棚は不器用な私の愛情表現の形なのかもしれません。

<ふじ組H>